



関中央ロータリークラブ

2021-2022 WEEKLY REPORT

例会日：毎週木曜日 18時30分 例会場：関観光ホテル 住所：岐阜県関市池尻 91-2
事務局：岐阜県関市下有知 1655-1 山田ビル 1階D室 TEL (0575) 24-7332 FAX (0575) 23-5278
会長 土屋 敏幸 副会長 波多野 篤志 幹事 伊佐地 司 クラブ会報委員長 後藤 政之

2021~2022 年度 関中央ロータリークラブ会長テーマ
「みんなで考えよう 未来へ繋ぐために」



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

4つのテスト 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

本日のプログラム 新型コロナウイルス感染症対応原稿例会
第 2045 回例会 2021 年 9 月 2 日 (木) / 担当 職業奉仕委員会
寄稿者 大藪 太会員 テーマ 「岐阜県木造応急仮設住宅」

*会長あいさつ 土屋 敏幸会長

8月27日から9月12日まで岐阜県も緊急事態宣言の対象地域となりました。大藪 太さんには急な原稿例会への変更を快諾してくださり心より感謝申し上げます。できるだけ通常例会を開催したいと思い、ギリギリまで様子を見る予定の為、卓話者のみなさんには大変ご迷惑をおかけしますが、ご容赦ください。

さて、現在、パラリンピックが開催しています。女子 100m背泳ぎ（運動機能障害S2）で日本選手団最年少の山田美幸さん（14才）が銀メダルを獲得しました。生まれつき両腕がなく、両足の長さも違って普段は電動車椅子で生活しているそうです。試合後の取材に応じる彼女は、堂々としていて目が輝いていました。お父さんを2年前に亡くされているそうですが、親孝行ができて良かったね。将来の夢は外交官になりたいとのこと。あなたならなれるよ、きっと。

これからもいろんな選手が、いろんな競技で健常者以上の情熱を持ってがんばってくれると思います。

私もあなたたちのことを勉強し、あなたたちのように華麗で力強く生きていきたいと思う。コロナなんかには負けてはいられないね。会員の皆さんも応援よろしくお願いします。

*原稿卓話

寄稿者 大藪 太会員

テーマ 「岐阜県木造応急仮設住宅」

今日は2019年に弊社が建築を担当しました「岐阜県木造応急仮設住宅」について話をさせていただきます。この事業は災害時に備えるべく、木造応急仮設住宅供給体制の整備に取り組むもので、慣れない避難生活を想定し、誰もが住みやすい仮設住宅とするため、今回初めて県産材を活用し、2~3人暮らしを想定した一般型とバリアフリー仕様の福祉対応型の2つのモデルを建設しました。広く見学・体験して頂くことで、居住性の向上につなげ、建設や維持管理上の課題を3年間に渡って検証するものです。

近年の大きな災害としましては、平成7年の阪神淡路大震災があります。震度7が適用された最初の地震で6434人の方が犠牲になりました。我々組合員

は地震発生一週間後にボランティアに向かいました。



次に平成 23 年東日本大震災、マグニチュード 9.0、最大震度 7、死者・行方不明者 18,428 人。



地元の災害としては平成 30 年津保川の氾濫。11 棟が全壊、304 棟が 1 部損壊、634 棟が床下浸水以上、死者 1 名。上之保地区だけで 100 台以上の車が流されました。



岐阜県木造応急仮設住宅建設訓練



弊社が建築を担当したのは福祉対応型で、床面積 37.26m² (11.25 坪)、構造材は岐阜県産桧、杉。

設計のポイント

- ①設備（風呂、キッチン、トイレ等）や外部スロープが車椅子に対応したバリアフリー仕様。
- ②段差や扉が無く、手摺りが完備されている。
- ③内壁に岐阜県産材の杉羽目板を使用し、落ち着いた空間に仕上げている。
- ④基礎断熱を採用した気密住宅である。

次に工事別の説明をします。

基礎工事

ベタ基礎でベース厚 150mm、鉄筋 D13@200mm という一般住宅並みのものです。

気密住宅のため基礎断熱を採用しています。

検討事項：ベタ基礎は必要か



木工事

土台、柱とも桧材 105mm 角、岐阜証明材を使用。人力による建て方。

検討事項：建て方にクレーンを使う。

内壁下地に構造用合板 12mm 使用。

検討事項：壁下地に合板は必要か
(手摺り下地には適当)



給排水設備工事

車椅子対応型流し台、身障者用ユニットバス、洗面台に可動式手摺り、便器にアームレスト、L型手摺り
検討事項：一般型ユニットバスで良くないか。便器が使いにくい。



板金工事

屋根はガルバリウム鋼板立平葺き



サッシ工事

アルミサッシペアガラス、玄関 2 本引き込み戸

検討事項：玄関はドアで良くないか



電気設備工事

一般電気設備、車椅子に配慮 (コンセント、スイッチ)

検討事項：自然給気口は不要 (換気框)

スロープ基礎工事

スロープコンクリート厚 100mm

検討事項：コンクリート製スロープが必要か



スロープ左官工事

階段 150mm 角タイル張り、点字ブロック設置

スロープ手摺り工事

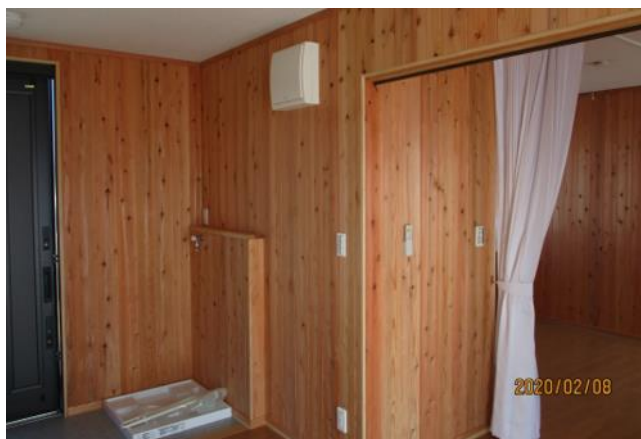
土台、柱桧材

検討事項：手摺りは金属製が良い

内装工事

天井クロス張り、窓、間仕切りカーテン

検討事項：白いカーテンは病室を連想しないか



仮設住宅の中には一時避難的なものではなく、引き続き復興住宅として数年間住まれ続けるものもあります。平成 28 年に発生した熊本地震後に建設された仮設住宅の中に気密性の高いものがあり、その評判が良かったこともあって岐阜県でもそれを参考に今回の設計がなされました。ただし、スピード感が求められる仮設住宅において、工期のかかるベタ基礎や、気密工事の採用は工期が長くなるだけでなく、建設費も高くなります。大災害が発生し、多くの人々が仮設住宅を必要とする場合、このままの仕様で建設することが適切かどうかは、これから検証されるべきことです。



災害に備えてぎふの木で つくる住みやすい仮設住宅

岐阜県木造応急仮設住宅

岐阜県では災害時に備えるべく、関係団体とともに、木造応急仮設住宅供給体制の整備に取り組んでいます。慣れない避難生活を想定し、誰もが住みやすい仮設住宅とするため、今回初めて県産材を活用し、岐阜県仕様で2～3人暮らしを想定した一般型とバリアフリー仕様の福祉対応型の2つのモデルを建設しました。皆さまに広くご見学、ご意見いただくことで、居住性の向上につなげるとともに、建設や維持管理上の課題を検証してまいります。



岐阜県

随時見学受付

<次例会の案内>

第 2046 回 2021 年 9 月 14 日 (火)

ガバナー公式訪問・3RC 合同オンライン例会

担当 会長・幹事